

「思考力」を高める問題解決的な学習指導の在り方（2年次）
～研究協力校における実践的研究～

福島県教育センター 調査研究チーム 指導主事 宍戸 和博

1 研究の趣旨

本県の児童生徒の学力における課題として、全国学力・学習状況調査等の各種調査から、知識・技能等を「活用」する力の育成、自ら課題を見だし、課題解決の計画を立て実践し、評価・改善するために必要な資質・能力の育成が挙げられる。一方、本チームが各教育事務所指導主事を対象として行った、県内の問題解決的な学習の実施状況についての質問紙調査の結果からは、本県では、問題解決的な学習における授業の質的変換が求められるという実態も見えてきた。

本研究では次期学習指導要領の目指す方向性に沿って授業を改善することが、上記の課題解決につながる考えた。また、「一人一人が自分の考えをもって他者と対話し、考えを比較吟味して統合し、よりよい考えや知識を創り出す力、さらに次の問いを見付け、学び続ける力」を「思考力」ととらえ、この「思考力」を育成すべき資質・能力の中核として、研究を進めることとした。また、「思考力」は、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現する「問題発見・解決の過程」を通して育まれていくものである。そのため、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を育成し、「主体的・対話的で深い学び」を実現させることが、「思考力」の高まりにつながる考えた。

研究の2年次となる今年度は、研究の対象を国語科にも広げ、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの「授業づくり」の在り方を提案する。そのために、研究協力者の実践から、「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づいた授業改善のポイントや授業改善を推進していく取組の在り方を明らかにしていく。そして、本研究から得られた知見を県内に示すことで、本県の「授業づくり」の質的改善に寄与できるものと考えた。

2 研究の概要

(1) 研究のねらい

求められる資質・能力を育むために、「思考力」の育成を目指し、問題解決的な学習における授業改善に向けて、「主体的・対話的で深い学び」の視点の実現による授業の具体を把握するとともに、PDCAサイクルに基づく授業改善の推進に向けた取組を通して、「授業づくり」の在り方を提案する。

(2) 研究の視点

「授業づくり」については、以下の二つの視点からとらえ、研究協力者のケーススタディを基に修正・改善を図りながら研究のねらいにせまることとした。

視点1 「主体的・対話的で深い学び」の視点を具現化する授業の明確化（授業イメージの共有化）

視点2 子どもの学びの質的向上に向けた教師の授業改善の推進（リフレクションによる授業改善）

3 研究の経過（現時点での成果と課題）

(1) 研究の成果

① 視点1について

ア 「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づく授業を具現化し、授業イメージを共有するために、「授業構成モデル（仮称）」を提案することができた。

イ 研究協力者の実践を通し、「授業構成モデル」において以下のポイントや要素が特に重要な点であることが分かった。

- ・ 単元や1単位時間の導入段階において、児童生徒の「見方・考え方」を立ち上げ、問題の発見・解決の見通しをもたせること。
- ・ 「対話的な学び」の視点においては、他者の考えを基に自分の考えを問い返す「自己内対話」につながる対話場面を成立させること。

② 視点2について

ア 授業改善に向けた取組を推進するための、授業リフレクションによる「授業づくりのプロセスモデル（仮称）」を提案することができた。モデルにおいては、個人と組織を関係付けた具体的なシステムとツールを提案した。

(2) 今後の課題

① 資質・能力の育成（「思考力」の育成）の評価の在り方については、その評価方法の研究と共に、客観性や妥当性も含めた更なる検証が必要である。

② 本研究で提案した各モデルは一つのベースとしての意味はあるが、校種の違い、教科・領域等の特質に応じたポイントや視点となるように、今後も修正・改善を図る必要がある。そのために実践事例を広げていくことで、より実行性の高いものへと目指す必要がある。